

平成19年度

# 決算認定



## 一般・特別会計決算

9月29日、30日、10月1日、2日、3日、6日の日程で平成19年度一般、特別会計決算審査特別委員会を行った。普通会計の経常収支比率は93・1%で18年度より、2・9%増えている。ちなみに、要注意ラインは、80%である。

収入未済額は、市税が約4億8,343万円、国保税約4億8,970万円、保育料3,040万円、等と増加している中で、19年4月より滞納整理システムを導入し、早い滞納対策を進め、収納率の向上に努力しているとのことだった。

また、歳出については、不用額の補正対応について質問があり、多額の不用額が生じないように、年間所用額の見込額の精度をより高め補正に取り組むとのことだった。

## 費用対効果について

新たに事業着手する場合は、その費用対効果を十分に検討すべきとの意見があり、執行部より大型プロジェクトなどは、ある程度長期の中で検討し予算計上していくとのことだった。

コミュニティタクシー、福祉バスなどの運行事業について、合併後3年経過し検討もされているが、整理統合して合理的にニーズにあったような形にするべきとの意見に対し、今年度見直しのため、の地域公共交通会議、補助金をもらうための新たな法定協議会を設置し、利便性が高く、効率的な運行に努めるとのことだった。

行政評価システムの早期実現の意見があり、執行部より検証を重ねながら、予算の配分などについていくとのことだった。

また、生きがいデイ

サービス事業について、対象者の基準の統一を計るべきとの意見があり、執行部からは見直しを行い、21年4月より実施することだった。



その他、随意契約、管理委託、主要事業などの取り扱いについて数多くの意見があり、特に委託料についてはその効果が十分に発揮されるよう意見、指摘などを行い、一般会計、特別会計の決算を承認した。

## 企業会計決算

10月10日、平成19年度企業会計決算審査特別委員会が開かれた。

## 余剰水の有効活用を

給水戸数は前年度より10戸減少して6,437戸、年間有収水量は対前年比9・5%の減となり、純利益は1,002万円。工場用給水的大幅減が影響した。

今後の給水収益などを十分把握し、経営の中長期の収支などについて十分に検討すべきとの指摘があった。



## 厳しい赤字経営 病院事業会計

小城市民病院は、地域における基幹的な公的医療機関として、地域医療の確保のため重要な役割を果たしているが、19年度損失1億6,566万円。病床利用率は60・2%であり大変厳しい経営状態にある。

経営改革プランを策定し医師の確保や病床利用率の向上、経営の効率化など抜本的な改革が必要との意見があった。



▶市民病院